
七つの大罪

プライド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七つの大罪

【NZコード】

N9980E

【作者名】

プライド

【あらすじ】

この作品は人間の七つの大罪を主に書きました。それぞれの大罪をホムンクルスたちにあてはめた短編集です。全八話でよろしくお願いします

傲慢（アラバード）（前書き）

少しグロテスクなところがあります。無理な方は、ご遠慮ください。

傲慢（プライド）

今、私の前にある大きな建物。

これは、鍊金術師の学校だ。

校長は国家鍊金術師だと聞いた私の敵。倒す相手。

「プライド。Pride」

太陽が少しまぶしい。

目の前には、大きな門がある。多分校門だろうか、ガードマンらしい男が2人立っている。まず手始めにあの2人を殺

ろう私は、不適な笑いを浮かべながらガードマンのいる門に歩いていった。

「おいっ！関係者以外は中に入れない。さあとっとと帰れ」男の1人は、私にそう言った。

「無理なお願いです」私は、あくまで人間のよだな微笑

みで言った。

ガードマンの2人は、私を取り押さえようとした。

「じゃまだよ」

私は、2人を鎌で切り裂いた。赤い薔薇のような血が飛び散った。ぴたつと数滴顔についた。

「バカな奴ら」私は、2人の死なんて何とも思わない、だつて私の名前プライドは、愚かな人間の傲慢な心という意味だから：

なんだかとてもムカムカしてきた。

私は、門を通つて学校の中に入った。

かなり静かだつた。私は、近くの教室を覗いた。「この印

は、ホムンクルスを表したものだ」

「彼らは、7人いる、みな人間離れした存在だ。

彼らは、我々鍊金術師の敵だ、万が一遭遇したらかまわず全力で倒せ」

彼らの言葉に怒りを覚えた。

学校の全員を殺すことを決めた。

クルス達の名前は……ガッシュ

突然窓ガラスが割れた。

「な、何だ！」クラ

「では、ホムン

私は、この

「はいっ！」

私は、

突然窓ガラスが割れた。

スの生徒達は、声を挙げて立ち上がった。

私が私の
着いてください

「一体誰が…」

私は、教室の扉を蹴り飛ばして中に
入った。

「私ですよ、愚かな鍊金術師さん達」

「誰だ！」

教師の1人が私の左腕に注目

「かかってきなよ。

鍊金術師さん達」
私は、鎌を振り上げた。

「皆さん校庭におびき寄せください」

教師の1人が生徒達に言った。

「はいっ！」

生徒達は、一斉に校庭に向かった。

「じゃあ、あなた達の作戦に付き合つてあげましょう」

私は、不適な微笑みをしながら校庭に向かった。校庭に着くと生徒全員と教師全員が待ちかまえていた。「お前の弱点は、このフラメルの十字架の鍊成陣だ」
その瞬間地面に書かれた鍊成陣が光りだした。

彼らは、勝利に満ちた顔。ホムンクルスは、あっけないなどと考えていた。

「ホムンクルス覚悟しろ！！」

さつきにも増して輝きだした。「これで勝つたと思うのは甘いですよ」

私は、弱点であるフラメルの十字架の鍊成陣には倒せないように体中に人体鍊成の陣が書かれている。

「た、倒れない！」
「あなた達の負け

です。私には、この人体鍊成の陣が書かれてますから

生徒達は、混乱して騒ぎ出した。

「皆さん落ち着いてください」

「所詮愚かな人間ですこと」

が私の異変に気づいた。
を感じている)

私は少し悲しくなった。
そんな中1人の教師が私の目から一筋の涙が
流れた。

「ど、どうしたんだ！」

生徒

達や教師達は、不思議に思つた。

「私は何故愚かな人間のために泣いて奴は泣いている」（私は何故愚かな人間のために泣いて奴は泣いている）

「本当に何故涙が…」「ホムンクルス、何故お前は泣いている」「その呼び方やめてください。私は、傲慢のプライドです」私は、ギッと睨んだ。

「何か事情があるなら聞いてやる」「いいや）」「私は、あなた達の傲慢な心が私を動かしたんです」

私は、校庭の真ん中に立つた。「人間の七つの犯してはならない罪、つまり七つの大罪、色欲、暴食、嫉妬、強欲、憤怒、怠惰、そして傲慢。今ここに彼らの傲慢な心をあらわしください」

その時私の左腕に書かれているウロボロスの入れ墨と地面に書かれているフーラメルの十字架の鍊成陣が光り出した。

「な、なにがあつたんだ？」「開け扉！私の大罪を吸いたかまれ」

学校がスッポリと入つてしまいそうな巨大な扉が出現した。「色、暴、嫉、強、憤、怠、傲（しき、ぼう、しつ、きょう、ふん、たい、ごう）七つの大罪ここに現れし」ギイーと鈍い音をたてて扉が開いた。

「どうか愚かな人間をお許しください」

すると扉の中から影のように黒く手のような触手が無数出てきた。そして：「さあ、存分にいたいでください」

生徒達を次々に扉の中に引きずり込んだ。「私たちの生徒に何をする！」（そんなの決まってるじゃん））

「あなた達鍊金術師を生かしておく必要がありません」（本当は、一度と同じ過ちをしないためなの…）

「無駄なあがきです」私は、再び鎌で切り裂いた。少し黒い血が飛び散った。「人間って愚かで悲しい生き物」私は、改めて思った。

そして私は、この学校を跡形もなく消し去った。

ホムンクルス、それは、人間の七つの大罪が源として生まれた形である、色欲、暴食、嫉妬、強欲、憤怒、怠惰、そして傲慢。

決して二度と犯してはならない

罪、もしも、犯した時、そのものに神からの罰をくだることになる。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9980e/>

七つの大罪

2010年10月9日18時45分発行